

# コロナ禍に政府がすすめる病床削減を当然視する市長でいいのか？ 市民の命とくらし守れる 市政へ転換を！

8月31日に神戸市会本会議がひらかれ、日本共産党神戸市議団を代表して森本真議員が議案質疑に立ち、この度上程された補正予算のうちコロナ対策について久元市長らの見解を求めました。

## 質疑項目

1. 新型コロナウイルス感染症対策について
  - (1) コロナ入院病床の大幅な確保及び回復病床の確保について
  - (2) 感染伝播の鎖を断つための大規模なPCR検査の実行について

この度の補正予算では、「新型コロナウイルス感染症について、変異株の影響による第5波や今後の感染拡大に対応するために、ワクチン接種を促進するとともに、医療供給体制の安定的確保に取り組む」としています。しかし現在、第4波をこえる過去最大の感染拡大が起き、若年層の感染拡大が猛烈に増え「あらゆる手立てをつくして命を

救うこと」が求められています。森本議員は、コロナ禍に公的病院である神戸労災病院と三菱神戸病院の68床の削減を市が認めたことや、中央市民病院の移転で大幅に病床を減らしてきたことを厳しく追及し、「今すべきことは、一般医療を守りつつコロナ病床の大幅な確保および回復病床の確保をするべきだ」と質しました。

## 森本議員が 議案質疑



## 答弁ダイジェスト

**小原副市長：**ワクチン接種を迅速にすすめ、この危機を乗り越えたい。

**森本議員：**ワクチンに頼ってはいけません。今、自宅療養者も療養先調整中も1000件近くにもものぼっている。コロナ患者にとっての願いは安心して十分な医療が受けられることだ。そのためには病床の確保が一番重要だ。

**久元市長：**改めて（病床）拡大する。最終的にはさらに増やす予定を組んでいる。

**森本議員：**中央市民病院の移転時に1000床あった病床を300床削減した。また、昨年

急性期病床を68床も減らすことを認めた。コロナが大変な時期に病床を削減すべきではない。

**久元市長：**病床削減でコロナ患者受け入れに影響することはない。神戸に限らず、わが国の人口当たりの病床は決して少なくはないし、一般病床を確保すればコロナ患者が受け入れられるという問題ではない。

**森本議員：**災害時レベルという認識で対応し、症状に応じて適切な治療が受けられる、重症になった時に入院できる施設が神戸で保障されることが大事だ。

るよう、教職員の頻回のPCR検査と早期のワクチン接種を

はじめ、徹底した感染対策を求めました。

## 久元市長も教育長も 国任せの無責任な答弁に終始 子どもたちの安全最優先に 市が率先して徹底した対策を

9月1日から新学期が始まりましたが、学校園・保育所の保護者や子どもたちからは不安と懸念の声が多数寄せられています。西村経再相が「特に深刻な首都圏や関西の学校の先生に定期的なPCR検査ができるよう自治体と調整

中だ」と明らかにしたことと触れると、市長は「聞いていない」教育長は「予定していない」という国任せで市として無責任な答弁をしました。森本議員は、高齢者・障がい者施設だけでなく、子どもたちが安心して学校生活を送れ

## 答弁ダイジェスト

**森本議員：**2回接種したらPCR検査をしないのはいかなものか。感染の伝播の鎖を断つためには、学校や保育所など現在感染拡大しているところにPCR検査をすべきだ。経再相が提言したように、神戸市でも教職員を対象に定期的なPCR検査を実施するのか。

**久元市長：**まだ国からは聞いていない。

**森本議員：**10代の感染が広

がる中、万全な感染対策が不可欠だ。

**長田教育長：**最低1m距離をとるということがマニュアルで示されているが、あくまでも目安で、これまで講じてきた感染防止対策はデルタ株においても非常に効果があると文科省からも通知が出ている。

**森本議員：**子どもたちのために神戸市として学校での万全な安全対策を取るよう明言し、実行すべきだ。

# 神戸・市民要求を実現する会が 三宮再開発などの大型開発より コロナ禍から市民の命とくらし、 健康や生業を守る市政に

**緊急  
要望**

神戸・市民要求を実現する会（以下「実現する会」）が8月27日に、久元市長に対し「新型コロナウイルス感染拡大にともなう、市民の命と健康、雇用と生業を守る緊急要望」の申し入れをおこない、日本共産党神戸市会議員団の森本真団長と大かわら鈴子議員が同席しました。

実現する会は、毎年神戸市の予算編成にあたって要望書を提出し、懇談を重ねてきましたが、神戸市をふくむ兵庫県下への4度目の緊急事態宣言の発令にともない、改めて「緊急要望」をとりまとめました。

緊急要望書では、以下の内容を求め9月中の回答を求めています。



申し入れをする実現する会の岡崎史典事務局長(左から2番目)と森本団長(左から3番目)と大かわら議員(一番左)

- PCR検査体制を学校園、家庭、職場、駅頭など気軽に繰り返し検査できるように拡充して感染拡大を抑え込むこと
- 医療機関への減収補填や医療・介護従事者への支援、中小業者への支援の拡充
- 経済的に苦しい立場に置かれやすい女性や非正規労働者、学生への独自支援
- 新学期を控える学校園での感染防止からも、保育所、幼稚園、放課後学童クラブなどの過密解消と少人数学級をすすめること

実現する会の岡崎史典事務局長は、申し入れで「コロナ禍のもとで、公的な支援が求められる時に、久元市長は病院の統廃合、病床の削減、保健所の縮小など逆行する施策を続けている。三宮再開発や市役所建て替えは中止・凍結し、コロナ禍から市民の命とくらし、健康や生業を守る予算に集中する市政に転換すべきだ」と求めました。

## 子どもたちや保護者の願い受け止め、 少人数学級の早期実現を 市議団が緊急申し入れ

8月27日、日本共産党神戸市会議員団は、神戸市教育委員会に、「学校夏休み明けにあたっての緊急要望」をおこないました。

子どもへの感染が広がるなかで、保護者や子どもたちから不安の声があがっています。日本共産党神戸市会議員団は、これまでの延長線上でない対策の強化を求めました。

市教委側は、「夏季授業日は、保護者や



学校現場には申し訳なかったが、急遽3日間の登校日はなくすよう変更した。子どもたちへの感染が益明けから増えているためだ」と述べるとともに、9月1日からの登校に対しても、「まずは3日間様子を見ながら対処したい」としました。同時に、6日からは「朝や、夜ごはんも食べられない子どもたちがいるなかで、出来るだけ給食は出したい」と話しました。

分散登校については、「学校ごとに判断したい」としながら、「第一波の際のいっせい休校は社会的影響が大きすぎた。学校教育は続けていきたい」としました。また、感染対策のため登校を見合わせることを検討しているご家庭に対し、「色々なパターン



があるので、欠席と扱わない」としました。

不織布マスクについては、「特に低学年の児童については、呼吸がしんどいなどの問題があり、外してしまう場合もあるが、教職員については徹底したい」と答えました。

日本共産党神戸市会議員団は、「今の学校の状況では、文科省が求める2メートルや1メートルのソーシャルディスタンスはとれない。ただちに前倒しで、少人数学級の検討をすべき」「子どもたちや保護者の願いをしっかりと受け止めてほしい」と強く要望しました。

### 21年度9月議会・決算特別委員会日程と共産党議員の質問予定

	月	日	曜日	審査順位	質問予定時刻	分科会	担当議員
会計室・市長室・行財政局	8	8	水	4	13:40	1	大かわら鈴子
消防局・危機管理室				5	14:25	2	西 ただす
企画調整局	9	9	木	3	12:35	1	朝倉 えつ子
港湾局				6	14:55	3	森本 真
健康局	10	10	金	4	13:40	2	松本 のり子
こども家庭局				5	14:25	3	味口としゆき
都市局	13	13	月	2	10:50	1	今井 まさこ
環境局				3	12:35	2	山本じゅんじ
建築住宅局	14	14	火	1	10:10	1	朝倉 えつ子
経済観光局				4	13:40	3	林 まさひと
水道局	15	15	水	2	10:50	2	山本じゅんじ
文化スポーツ局				3	12:35	3	森本 真
交通局	16	16	木	6	14:55	1	大かわら鈴子
福祉局				1	10:10	2	松本 のり子
建設局	17	17	金	6	14:55	2	西 ただす
教育委員会				2	10:50	3	味口としゆき

ご視聴ください

**西ただす議員が  
総括質疑**

視聴は  
こちらから→



**日時** 9月24日(金)13時30分頃から

**場所** 市議会本会議場

本会議および委員会のインターネット中継をおこなっていますので、ぜひご利用ください。

決算特別委員会局別審査も時間が前後する可能性がありますので、余裕をもってご覧ください